



日本画・水彩画の普及・発展、 地域伝統行事の振興

かみ お ただ お
神 尾 忠 雄

(85歳)

住 所 秋田市

秋田市文化団体連盟に加盟し、「秋田市芸術祭総合美術展」に作品を出品するのみならず、美術部門代表として運営にも長年にわたり携わり、現在は副会長として連盟の運営に尽力している。

韓国の江陵市芸術文化団体総連合会を招いて「日韓写真展」を開催するとともに、美術部門展や華道部門展も企画併催し、文化を通じた日韓交流を促進した。

また、県内最古の絵画団体「素心会」の会員として、様々な工夫を凝らした展示を企画し、他の団体に影響を与えるとともに、近年は同団体の代表責任者を務め、毎年「素心会展」の開催の陣頭指揮に当たっている。

地域においては、秋田市保戸野鉄砲町の勝平神社で開催される「地口絵灯ろう祭り」を復活させ、町内子ども会などを対象に指導を行っているほか、「第29回国民文化祭・あきた2014」において、400個以上もの地口絵を展覧する取組などを通じて、伝統行事の継承と後継者の育成にも尽力している。



文化財保護の推進

まつ だ ゆう さく
松 田 有 作

(83歳)

住 所 湯沢市

昭和38年頃、勤務先の出張で金沢市を訪れた際、金沢城で開催されていた「大名刀剣」の展示会を見学し、刀剣類に強く魅力を感じるようになった。日本美術刀剣保存協会秋田県支部に入会したことを契機に、文化的価値を有する貴重刀剣、保存刀剣、保存刀装・刀装具類などの鑑定や審査に携わることで研鑽を重ね、そこで培われた高度な専門性や豊富な経験を生かし、文化財としての貴重刀剣類の保存活動に尽力した。

これまでの長年にわたる取組に対して日本美術刀剣保存協会本部から「中傳位」を授与されるなど、各界から高い評価を受けている。

また、専門性や経験に加えて、優れた人間性が求められる県銃砲刀剣類登録審査委員を19年間にわたり務め、安定した任務遂行により高い信頼を得るなど、本県文化財保護行政の推進に果たした功績は大きい。



地域社会の発展

すず き しげ お
鈴 木 茂 夫

(78歳)

住 所 秋田市

会社を経営するかたわら、数々の公益的団体の活動に加え、秋田南法人会及び秋田県法人会連合会の活動に長年携わり、それぞれの会長を務めた。

小学生を対象とした租税教育活動に積極的に取り組み、幼い頃から税の大切さを楽しみながら知ってもらうことで、県民の税知識の定着に寄与したほか、県内中小企業を中心に、新設法人説明会や決算法人説明会などを開催し、税の基本的な仕組みや必要な手続を学ぶ場を設けることや、「e-Tax」（申告の電子化）の普及に尽力し、税の適正な申告や納税の実現に貢献した。

平成26年には、全国法人会総連合が主催する「第28回法人会全国青年の集い秋田大会」を秋田県法人会連合会会長として主管し、地域社会活動や租税教育活動の振興を中心テーマに、全国各地の法人会青年部会員同士の交流を促進し、成功裡に導くなど、地域社会活動や租税教育活動の振興に寄与した功績は大きい。



民謡の普及・発展

お の はな こ
小 野 花 子
(本名 ^{ほしの} 星野 ^こ ハナ子)
(74歳)

住 所 秋田市

小学生時代に、地元の民謡会の練習に祖母と共に出掛けたことをきっかけに民謡を歌い始め、中学校卒業後に秋田民謡の大家・成田与治郎氏に弟子入りし、民謡酒場で歌を披露するなど、本格的な民謡修行を始めた。

「秋田長持唄」でレコードデビューすると、日本民謡協会全国大会では「秋田船方節」を歌って優勝したほか、浅草国際劇場でワンマンショー公演を行うなどの実績を重ね、平成30年には、日本民謡協会から「民謡界の至宝」と認められた者だけに贈られる最高章の「民謡名人位」を受章した。

現在も全国で公演を行っているほか、県内でも民謡をテーマにしたラジオ番組のパーソナリティーを務めるなど、県内外における秋田民謡の伝承・普及に貢献している。



地域経済の振興

きむら しげる
木村 繁

(72歳)

住 所 秋田市

L P ガス販売などを手掛ける会社を経営するとともに、秋田県 L P ガス協会の会長を務め、L P ガスの保安体制の確立と防災活動の推進に取り組み、県民生活を支えるエネルギーの安定供給や県民の安全・安心の確保に尽力した。

そのかたわら、秋田商工会議所副会頭や秋田みなと振興会会長などの役職を歴任し、中小企業の振興や本県経済発展の核となる秋田港の活性化を推進し、地域経済の発展に貢献した。

また、「土崎神明社祭の曳山行事」の文化継承活動や、「北前船寄港地」としての歴史的つながりを背景とした秋田市と酒田市の経済・伝統文化交流事業を推進するなど、地域経済活動に留まらない幅広い分野に精力的に取り組み、地域文化の継承や交流人口の拡大に貢献している。



川柳の普及・発展

故 さる猿 た田 かん寒 ぼう坊

(本名 さる た猿田 かず お和男)

(享年79歳)

住 所 五城目町

高校在学中から秋田魁新報社柳壇への投句を始め、すずむし吟社・渡辺銀雨に師事し、卓越した川柳技法を習得して、各川柳大会で第1位を多数、平成18年には全日本川柳誌上大会「柳多留」で第1位を獲得するなど、「秋田の寒坊」として名声を高めた。また、国民文化祭、全日本川柳大会などの川柳大会の選者を自ら務める一方で、人脈を活かして全国の著名な川柳家を選者に招聘し、本県川柳の発展・向上に寄与したほか、秋田県川柳懇話会会長として、16年間にわたり職責を全うし、組織の充実を図るとともに、県内川柳人を一つにまとめ上げた功績は大きい。

平成11年には、大潟村で開催された「第23回全日本川柳秋田大会」を成功させ、本県の川柳を全国レベルに引き上げた。

33年間の長きにわたり秋田魁新報社柳壇選者を務めたほか、テレビやラジオに選者として継続的に出演し、正しい川柳の普及と川柳愛好者の拡大に貢献した。



民俗芸能の保存・振興

故 かつ勝 また又 みき幹 お雄

(享年71歳)

住 所 鹿角市

秋田県三大盆踊の一つである「毛馬内の盆踊」が踊られる鹿角郡毛馬内町中町に生まれ、7歳から踊り手として参加した。

「毛馬内の盆踊」は、一時は参加者が減り衰退傾向にあったが、実行委員会として盆踊の開催を現在の運営体制に改革するなど、復興に努め、平成10年の国の重要無形民俗文化財の指定に寄与した。

踊りの指導者として、後継者の育成にも力を入れ、幼稚園・小中学校・高校での踊りや着付けの指導、教則CD・DVDの作成など、「毛馬内の盆踊」の保存・育成、振興に長年にわたり尽力した。

近年は、「風流踊」としてのユネスコ無形文化遺産登録に向けて精力的に活動し、地域での盆踊りの開催のほか、外部公演の出演も積極的に受け、自らも踊り手として出演し、「毛馬内の盆踊」の知名度向上に貢献した。